

氏名	藤 原 恒太郎
学位(専攻分野)	博 士(医 学)
学位授与番号	博 甲 第 1167 号
学位授与の日付	平成 5 年 3 月 31 日
学位授与の要件	医学研究科病理系病理学(二)専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Expression of a Lymphocyte Adhesion Molecule(CD44)in Malignant Lymphomas : Relevance to Primary Site, Histological Subtype and Clinical Stage (悪性リンパ腫におけるリンパ球接着分子(CD44)の発現：原発 部位，組織学的分類，臨床病期との関連)
論文審査委員	教授 岡田 茂 教授 木村 郁郎 教授 中山 睿一

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

抗 CD44抗体 Hermes-3 によって同定されるリンパ球接着分子はリンパ球の血管内皮細胞への接着に関与しているといわれている。我々は、153例の非ホジキンリンパ腫と14例のホジキン病について CD44の発現と原発部位・組織学的分類・臨床病期(CS)との関連を免疫組織学的に検討した。節性B細胞性リンパ腫のうち、びまん性リンパ腫(DL)は38例中28例(74%)で CD44⁺であったのに対して、濾胞性リンパ腫(FL)では12例全例で CD44⁻であった ($p < 0.0001$)。節性DLにおいて、B細胞性に比しT細胞性の陽性率は有意に高かった ($p < 0.04$)。また Stage I 症例では5例中3例(60%)で、Stage II - IV症例では63例中53例(84%)で CD44⁺であったが有意差はなかった。節外性FLは節性のものとは対称的に4例中3例で CD44⁺であった。DLでは原発部位による発現の差は見られなかった。ホジキン病では9例で陽性であったがCSとの間に関連はみられなかった。以上、CD44の発現と悪性リンパ腫の一部の組織型や原発部位との間に関連がみられた。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、接着分子 CD44の発現を悪性リンパ腫において検討したものである。その結

果，発生部位，組織型，細胞系統により CD44 の発現が異なり，正常リンパ節の発現様式を反映していることが見出された。臨床ステージングとの関連は見られなかった。本研究は悪性腫瘍における接着分子の発現に関して価値有る業績と考える。

よって本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。